

「住民の苦難の解決」に献身 水害対策の専門家



国土交通省遠賀川河川事務所に7・19水害対策の充実を申し入れる川上なおきさん（中央奥）

川上なおきさん



九七年の鹿児島県出水市土石流災害では、党国会水害調査のメンバーとして、現地にかかけつけました。福岡市議団事務局長として御笠川対策などにも取り組み、七・一九飯塚水害対策でも活躍しています。

国・県・市と交渉 再発防止策を積極提案

「被災者の悲しみに、胸がつぶれる思い。政治の責任が問われている」——こう語る川上さんは、水害被災地の状況をつぶさに調査。各地の経験を踏まえ、全国的な視野から、水害を防止する抜本対策を提案するとともに、個人の家屋や財産を補償する制度の実現を国に働きかけてきました。

七・一九飯塚水害では、党市議団が、商工業者が利用しやすい融資制度の改善を提案、三十七億円余の融資実績となり、喜ばれています。

川上なおきの提案

- ① 全市的に遊水地・調整池の設置を
山間部・上流部に降った雨を、最大限保水できる遊水地や浸透性舗装、止水板などの整備
- ② 遠賀川・穂波川の掘削で、水位を下げる
遠賀川・穂波川の流下能力を高めるため、当面、桂川町から鯉田堰までの十キロの河川敷や中洲、堤防を掘削し、容量を増やす
- ③ 迅速な避難誘導・連絡体制の整備
地域に災害行政無線の設置を

97年出水市大水害

被災者を訪問し、再発防止へ奔走した川上さん。それ以来、水害対策がライフワークに。



七月十九日午前の市街地
（国土交通省パンフより）



当時の状況を報じた「しんぶん赤旗」